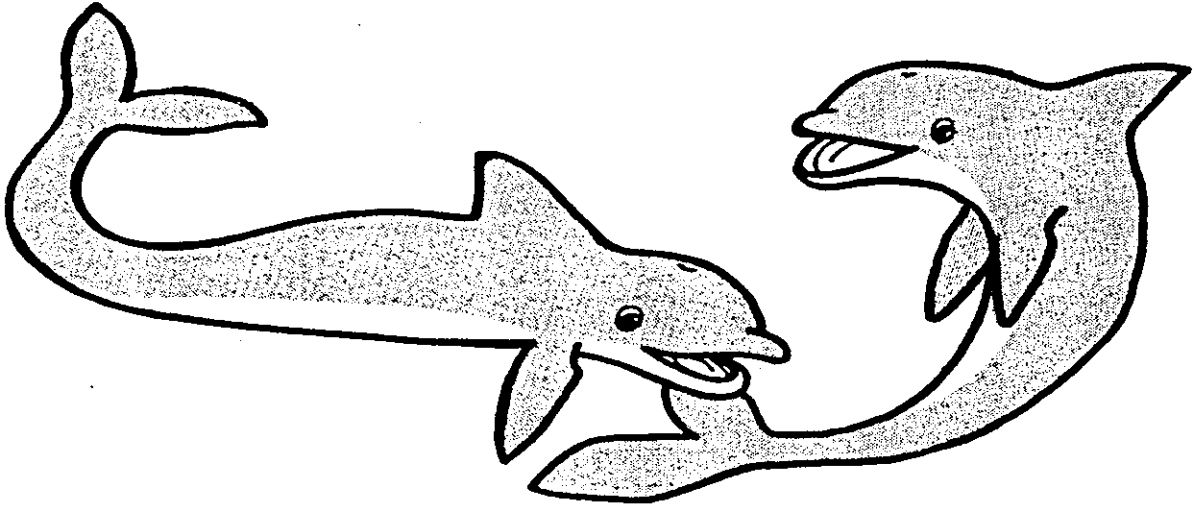


# 子どもアンケート<sup>2004</sup>

Kiddo-KINDL<sup>R</sup>



記入日： 平成\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

中学\_\_\_\_年\_\_\_\_組\_\_\_\_番 氏名\_\_\_\_\_

男 / 女 \_\_\_\_\_歳\_\_\_\_ヶ月 生年月日 平成\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

1. 兄弟姉妹は 自分を入れないで 何人いますか？  
 ( いない / 1人 / 2人 / 3人 / 4人 / 5人以上 )

2. いま、治療中ちりょうちゅうの病気びょうきがありますか？ ( ある / ない )

ある人は ( ぜん息ぜんそく / アトピー性皮膚炎せいひ えん / 腎臓じんぞう / かぜ / その他\_\_\_\_\_ )

3. 朝食ちようしょくをたべていますか？  
 ( 毎日食べる / ときどき食べる / 食べない )

4. 睡眠時間すいみんじかんは どのくらいですか？ 平均へいきん \_\_\_\_\_時間くらい

5. 睡眠時間すいみんじかんは 足りていると思いますか？ ( はい / いいえ )

これから、あなたの健康や生活のようすなどについて お聞きします。1項目ずつ よくよんで、この1週間ぐらいのことを おもいだして、自分に一番あてはまると 思う答えをえらんでください。これには、正しい答えやまちがった答えはありません。あなた自身の考えで答えてください。

あなたが、自分に 1番あてはまると 思う ところの □ の中に はみ出さないように  
○ を書いてください。

	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
1. あなたの <sup>からだ</sup> 身体のことについて 聞かせて下さい。 この1週間.....					
①...私は 病気だと 思った。					
②...私は 痛いところが あった。					
③...私は 疲れて ぐったり していた。					
④...私は 元気 いっぱいのように 感じた。					

	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
2. あなたは どのような気持ちで 過ごしましたか。 この1週間.....					
①...私は 楽しかったし、 たくさん 笑った。					
②...私は つまらなく感じた。					
③...私は 孤独 (ひとりぼっち) のような 気がした。					
④...私は 何もないのに こわくなったり、 不安に思った。					

	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
3. あなたは 自分のことを どのように 感じていましたか。 この1週間.....					
①...私は 自分に 自信が あった。					
②...私は いろいろなことが できる感じがした。					
③...私は 自分に 満足していた。					
④...私は いいことを たくさん 思いついた。					

4. あなたと あなたの 家族について 聞かせてください。 この1週間.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...私は 親(父または母)と うまく やっていた。					
②...私は 家で 気持ちよく 過ごしていた。					
③...私は 家で けんかを していた。					
④...私は 親(父やまたは母)に やりたいことを させてもらえないと感じた。					

5. あなたと 友だちとの ようすを 聞かせて下さい。 この1週間.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...私は 友だちと いっしょに いろいろなことを した。					
②...私は 友だちに 受け入れられていた(きらわれていなかった)。					
③...私は 友だちと うまく やっていた。					
④...私は 自分が ほかの人たちと くらべて 変わっているような気がした。					

6. 学校での ようすを 聞かせてください。 この1週間.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...学校での 勉強は 簡単だった(よくわかった)。					
②...私は 学校は おもしろいと思った。					
③...私は 自分の 将来(これから先のこと)について 心配していた。					
④...私は 悪い成績をとらないか 心配していた。					

今、治療中の病気がある人のみ 答えてください。

7. あなたは 病気のことを どのように 感じていましたか。 この1週間.....	ぜんぜん ない	ほとん どない	ときど き	たいて い	いつも
①...私は 自分の 病気が ひどく になってしまうのでは ないか 不安だった。					
②...私は 病気のせいで 悲しくなった。					
③...私は 自分の病気が よくなるように がんばった。					
④...私の親は 病気のせいで 私を 赤ん坊のように あつかった。					
⑤...私は 自分の 病気のことを 誰にも 知られなくなかった。					
⑥...私は 病気のせいで 学校の 行事などに できなかつた。					

最後に もう一度 記入もれがないか 見直してください。  
ご協力ありがとうございました。

#### 注意事項

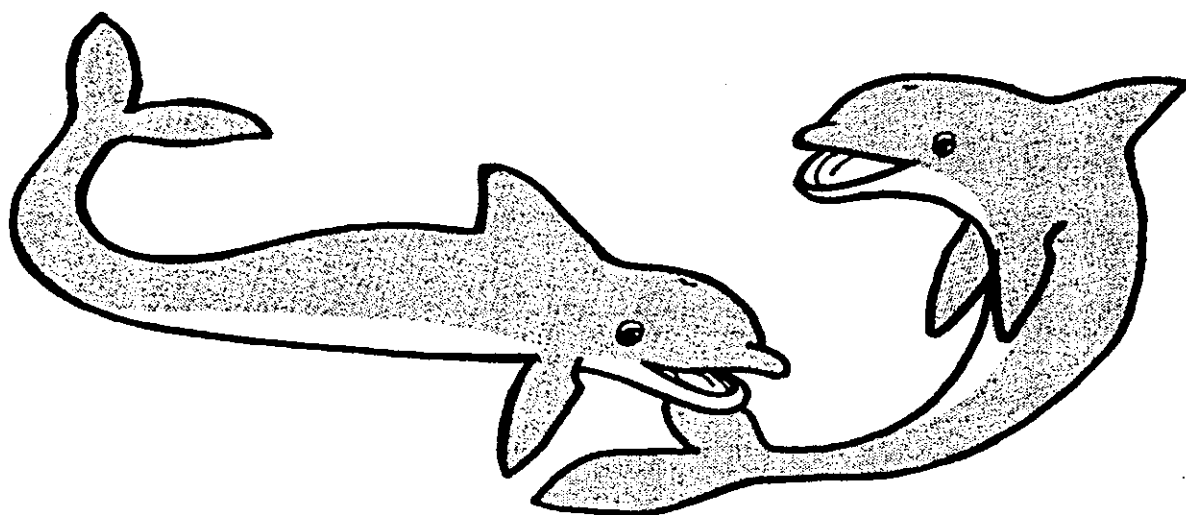
1. 学年, 性別, 年齢は必要ですが, 組, 番号, 氏名, 生年月日は書かなくてもいいです。
2. 記入もれや記入ミス (同じ行に2つ〇をつけてしまう, 〇が□からはみだしている) がないようにしてください。ただし, どうしても答えたくないときは, 番号のところに×印をつけて, 記入しなくてもかまいません。

これは, 一人一人ではなく全体のデータをまとめて使いますので, 個人のプライバシーにはかかわるようなことはありません。これからの医療に役立つ資料を作成しようとしておりますので, ぜひご協力をお願いいたします。

不許複製

# こどもアンケート <sup>2004</sup>

KINDL<sup>R</sup> Parents' Version



記入日： 平成 年 月 日

記入者： 父親 / 母親 / その他 \_\_\_\_\_

記入者のお名前 \_\_\_\_\_

お子様のお名前 \_\_\_\_\_ ( 男子 / 女子 )

お子様の年齢：平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日生 \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ ヶ月 小学 / 中学 \_\_\_\_\_ 年生

お子様は \_\_\_\_\_ 人兄弟姉妹の第 \_\_\_\_\_ 子

これは、お子様の健康全体に関わる生活満足度のアンケートです。ここでは、お子様自身の満足度に対する親の評価を参考にしますので、お子様には直接質問したりせずに、ご自身お一人でお答えください。

お子様の状態にもっともよくあてはまると 思われるところに ○を 書き入れてください

1. 身体の状態について この1週間 . . . . .	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①…私の子どもは 自分が 病気だと 思っているようだった.					
②…私の子どもは 頭痛がした, あるいは 腹痛があった.					
③…私の子どもは 疲れて ぐったりしていた.					
④…私の子どもは 元気 いっぱいと感じているようだった.					

2. 心の状態について この1週間 . . . . .	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①…私の子どもは 楽しそうで よく 笑っていた.					
②…私の子どもは つまらなさそうだった.					
③…私の子どもは 一人ぼっちだと 感じているようだった.					
④…私の子どもは なにもないのに こわがったり, 不安そうに していた.					

3. 自分自身について この1週間 . . . . .	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①…私の子どもは 自信が あるようだった.					
②…私の子どもは いろいろなことが できると 感じている ようだった.					
③…私の子どもは 自分に 満足しているようだった.					
④…私の子どもは いい考えを いろいろ 思いついていた.					

4. 家族との様子について この1週間.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...私の子どもは 親(私 あるいは 私たち)と うまくいっていた。					
②...私の子どもは 家で 気持ちよく 過ごしていた。					
③...私たち 親子は 家で けんかを していた。					
④...私の子どもは 親(私 あるいは 私たち)が 取り仕切っていると 感じている ようだった。					

5. 友だちとの様子について この1週間.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...私の子どもは 友だちと いろいろなことを していた。					
②...私の子どもは 他の子どもたちに 好かれているようだった。					
③...私の子どもは 友だちと うまく やっているようだった。					
④...私の子どもは 他の子どもに比べて 自分は変わっていると 感じているようだった。					

6. 学校生活について この1週間.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...私の子どもは 学校での勉強を 簡単そうに やっていた。					
②...私の子どもは 学校の授業を 楽しんでいるようだった。					
③...私の子どもは 将来のことを 心配しているようだった。					
④...私の子どもは 悪い成績をとらないか 心配しているよう だった。					

お子様が入院されている、または通院されているかたは、7. にお進みください。  
それ以外のかたは、6. で終わりです

7. 病気などについて この1週間 . . . . .	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①…私の子どもは 自分の病気の悪化に 不安を感じているようだった。					
②…私の子どもは 病気のせいで 悲しそうだった。					
③…私の子どもは 自分の病気が よくなるように がんばっていた。					
④…私は 子どもを 病気だからといって、赤ちゃんあつかいしていた。					
⑤…私の子どもは 自分の病気のことを 誰にも知られたくないようだった。					
⑥…私の子どもは 病気のせいで 学校の 行事などに 出られなかった。					

ご協力ありがとうございました。

注意事項

記入漏れや記入ミス（同じ行に2つ○をつけてしまう、○が□からはみだしている）がないようにしてください。ただし、どうしても答えたくないときは、番号のところに×印をつけて、記入しなくてもかまいません。

これは、一人一人でなく全体のデータをまとめて使いますので、個人のプライバシーにかかわるようなことはありません。これからの医療に役立つ資料を作成しようとしておりますので、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。

不許複製



小学 / 中学 \_\_\_\_\_ 年生 男子 / 女子 お子様のお名前 \_\_\_\_\_

☆ 空欄にご記入, または当てはまる箇所を ○で かこんでください。

1. お子様の食欲は, いかがですか。 ( 食欲が旺盛 / 食欲は普通 / 食欲がない )
2. お子様は 朝食を食べていますか。 ( 毎日食べる / ときどき食べる / 食べない )
3. お子様の睡眠時間は どのくらいですか。 平均 \_\_\_\_\_ 時間
4. 朝は 自分一人で起きていますか。  
( いつも起きる / たいてい起きる / ときどき起きる / ほとんど起きない / ぜんぜん起きない )
5. お子様は, いまの生活に 満足していると思いますか。  
( 満足している / 普通 / あまり満足していない / 満足していない / わからない )
6. 現在, お子様のごことで 困っていることや 心配なことがありますか。  
①はい: 親子関係 / 友達関係 / 学習面 / 身体面 / 家庭環境 / その他 ( \_\_\_\_\_ )  
②いいえ
7. この3ヶ月以内, お子様にとって なにか大きな出来事が ありましたか。  
( あった \_\_\_\_\_ / なかった )

現在, お子様に治療中の病気がある方へ

現在治療中の病気についておたずねします。

8. お子様の病気は・・・( 急性疾患＝発熱など急にかかる一時的な病気 / 慢性疾患 / 両方 / その他 \_\_\_\_\_ )
9. お子様の病気の症状(病名)は
  - a. 急性疾患の方: 風邪 / 腹痛 / その他 ( \_\_\_\_\_ )
  - b. 慢性疾患の方: 気管支喘息 / アトピー性皮膚炎 / 肝臓疾患 / 腎臓病 / 糖尿病 / 心臓疾患 / 神経疾患 / その他 ( \_\_\_\_\_ )
 発症は何歳からですか。・・・ \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ ヶ月

お子様が慢性疾患の方へ

10. 今までにお子様は何回入院しましたか。( \_\_\_\_\_ 回)
11. お子様は月に平均どれくらい通院していますか。  
( 1回未満 / 1回 / 2回 / 3回 / 4回 / 5回以上 \_\_\_\_\_ 回 )
12. お子様は月に平均どれくらい学校を欠席していますか。  
( 1日未満 / 1日 / 2日 / 3日 / 4日 / 5日以上 \_\_\_\_\_ 日 )

お子様が気管支喘息の方へ

13. 現在, 発作はどれくらいの頻度でありますか。
  - a. 小発作 ( 年数回以内 / 半年に数回 / 1カ月に数回 / なし )
  - b. 中発作 ( 年数回以内 / 半年に数回 / 1カ月に数回 / なし )
  - c. 大発作 ( 年数回以内 / 半年に数回 / 1カ月に数回 / なし )

平成 15 年度 16 年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭研究事業）

分担研究報告書

子どもの QOL 尺度質問紙（小学生版・中学生版・親用）

分担研究者	柴田 玲子	湘南医療福祉専門学校非常勤講師
協力研究者	松寄くみ子	青山学院大学文学部心理学科兼任講師
	根本 芳子	太田総合病院
	松村陽子	青山学院大学大学院文学研究科
	神前裕子	聖心女子大学大学院文学研究科

研究要旨

子どもの QOL に関する研究は、基礎的研究も極めて少なく、国内外において小児がん患児、喘息児、てんかん児などを対象とした QOL 質問紙はあるものの、これらは一つの疾患の影響や症状の改善を測定するための指標であった。医療関係者による病気に関する評価のみではなく、学校適応を含めた日常生活全般の心身両面からの健康度や適応度を客観的に測定できる指標が必要であると考え、子どもの QOL 尺度の質問紙の作成を試みてきた。

the Kid-KINDL<sup>R</sup> (Questionnaire for Measuring Health - Related Quality of Life in Children, for children between the ages of 8 and 12, Ravens & Bullinger, 2000) は、6 下位領域（身体的健康、情緒的ウェルビーイング、自尊感情、家族、友達、学校生活）の総合得点を QOL とするもので、子ども自身の報告による学校適応を含めた日常生活全般の健康度や適応度を測定できる指標である。6 下位領域それぞれ 4 項目ずつ計 24 項目であり、簡便に使いやすいのも特徴である。私たちは、Kid-KINDL<sup>R</sup> を翻訳し、「小学生版 QOL 尺度」と名づけ、その信頼性と妥当性の検討をすでにしていたが、「小学生版 QOL 尺度」を使った発展的研究がすでにはじまっており、標準値を知りたいという要望もでてきた。また、QOL 尺度の親用や中学生用の質問紙の必要性も生じてきた。

本研究では、①「小学生版 QOL 尺度」における前回の調査時にできなかった低学年の妥当性の検討、②KINDL<sup>R</sup> for Parent を翻訳し、「小中学生版 QOL 尺度：親用」としてその信頼性と妥当性の検討、③調査地域、調査時期や調査対象校を拡大して幅広い調査を行なうことによって、日本におけるおおよその標準値を示すこと、④13 歳から 16 歳用の the Kiddo-KINDL<sup>R</sup> を翻訳し「中学生版 QOL 尺度」として小学生版と同様に使えるかどうかを検討することを目的とした。

平成 15 年度には、小学 1, 2 年生 181 人（男児 101 人、女児 80 人、有効回答率 98%）に、個別にインタビュー形式の調査をすることによって、子どもうつ尺と QOL 得点ならびに 6 下位領域得点の間には中程度以上の負の有意な相関、自尊感情尺度も同様にと中程度の正の有意な相関がみられた。2 つの心理的適応尺度と理論的に期待される方向での相関がみられ、その妥当性が示された。低学年の場合、調査方法はそのときの状況に応じてインタビュー形式にするなど慎重に取り組む必要はあるが、「小学生版 QOL 尺度」は小学校低学年

においても実施可能であることが示された。

また、都内の1公立小学校の児童の保護者484名に「小学生版QOL尺度：親用」を配布し、429名を分析対象（有効回答率88%）とした。QOL得点ならびに6下位領域得点において、親の回答と子どもの結果と弱い相関が全て有意な相関みられ、内的整合性をみる $\alpha$ 係数から信頼性も示された。

さらに、首都圏、市部、町村部という地域性を考慮して広範囲な小学校に調査を依頼し、新潟県、福島県、東京都、神奈川県、岐阜県の承諾の得られた学校に、調査の意図、実施方法を説明して、クラスごと集団実施してもらった。平成15年度と16年度あわせて、国公立小学校18校、私立小学校1校となり、調査時期は、平成15年度10～11月、16年2～3月、平成16年度は6～7月に、調査用紙を配布した。調査時期が6月のところもあるため入学間もない小学1年生は対象外として、最終的には小学2年生から6年生までを分析対象者とし、首都圏の公立私立小学校4校2005人（男児1047人、女児958人）、市部にある公立小学校3校1354人（男児666人、女児688人）、町村部にある公立小学校12校1248人（男児635人、女児613人）、総計4607人（男児2348人、女児2259人）となった。

QOL得点においては、首都圏、市部、町村部の地域における有意な差は見られなかった。小学生のQOL得点は、ほぼ正規分布しており、平均値は67.46、標準偏差は13.49の結果となった（男児67.57, SD=13.66, 女児67.35, SD=13.31）。完全な全国調査とはいえないが、おおよその日本の小学生の平均値であり、代表的値と考えられる。年齢的な特徴としては、学年ごとにQOL得点、下位尺度の自尊感情、友だち、学校の得点が低下しており、特に学校、自尊感情の5、6年生の平均は他の学年の平均より有意に低かった。性別による差はQOL得点では見られなかったが、下位領域では身体的健康と自尊感情の得点は男児の方が女児より高く、家族と友達との得点は女児の方が男児より高かった( $p<.001$ )。

16年度には、Kiddo-KINDL<sup>R</sup>(13 to 16 - years - olds)を翻訳し、「中学生版QOL尺度」として、首都圏の公立私立中学校4校、市部にある国公立中学校2校、町村部の公立小学校3校に配布し、各学校で集団実施された。回収された中学生3164人のうち、回答が不備なものなど235人を除き2926人（男子1440人、女子1486人、有効回答率92%）を分析対象とした。地域別内訳は、首都圏の公立私立中学校4校の1505人（男子735人、女子770人）、市部にある国公立中学校2校の836人（男子414人、女子422人）、町村部の公立小学校3校の585人（男子291人、女子294人）であった。その中の2校には信頼性の検討のために1～2週間後に再調査を依頼し、287人（男子142人、女子145人）の有効回答が得られた。その結果、1回目と2回目の再テストとには高い相関が示された。また、内的整合性をみるための $\alpha$ 係数も下位尺度の学校得点以外は高く、「中学生版QOL尺度」の信頼性が得られた。また、治療中の病気を報告した疾患群と健康群との間には有意な差がみられ、基準関連妥当性が確かめられた。中学生版の構成概念妥当性の検討、ならびに、地域による人数のばらつきが大きいので人数の調整をして中学生の標準値は来年度の課題としたい。

## A. 研究目的

近年、健康における精神的社会的な側面が認知されてくるにつれ、Quality of lifeが注目されるようになり、その概念は様々な分野で研究がなされている。WHO (World Health Organization, 世界保健機構) は、QOL (Quality of Life) の概念を「一個人が生活する文化や価値観のなかで、生きることの目標や期待、基準、関心に関連した自分自身の人生の状況に対する認識」と定義したうえで、国際的に標準化された成人用質問紙 WHOQOL を開発している。成人用 WHOQOL と同様に国際的に標準化された質問紙 SF-36 と EuroQOL があるが、いずれも子ども版はなく、子どもの QOL に関する研究の基礎的研究も極めて少ない。QOL を測定するための質問紙も小児においては疾患特異的な質問紙がほとんどである。しかし、小児の分野においてもトータルケアの重要性が指摘され、疾患を治療することだけでなくその子どもの生活全体に目が向けられるようになった。そうすると、発達段階にある子どもは内面の評価が難しいとはいえ、医療におけるアウトカム指標としても予防的な観点からも子どもの生活全体をみた子ども自身による主観的健康度、満足度、適応度を客観的に測定できるものが必要となる。そのためには、医療関係者による身体的側面に関する疾患特有の評価のみではなく、心理的な側面も含めた評価が重要となり、学童期以上には学校適応をも含めた日常生活全般のなかで心身両面をとらえていく必要性がでてくる。

昭和大学医学部小児科学教室は、隣接する公立小学校に「健康相談室」を設け、小学校の先生方や PTA の方々と連携しながら

小学校における心と体の新しい健康管理を目指してきた。そのような状況のもと、先の必要性の認識を強めると共に、学校の協力も得られやすく、子どもの QOL 尺度の質問紙の作成を試みていた。成人用質問紙 WHOQOL の開発メンバーである Bullinger<sup>1)</sup> が Ravens とともにドイツで開発し、それを英語版にした the KINDL<sup>R</sup> (Questionnaire for Measuring Health - Related Quality of Life in Children) である<sup>2)3)4)</sup>。Nursery School / Kinder gardenに通う子どもを対象にした4~7歳用 Kiddy-KINDL<sup>R</sup>、8~12歳を対象にした Kid-KINDL<sup>R</sup> for children と13~16歳を対象にした Kiddo-KINDL<sup>R</sup> for adolescents があり、さらに親から見た子どもの QOL を測定する Kiddy-KINDL<sup>R</sup> for Parent Version (4~7歳の保護者用)、Kid-KINDL<sup>R</sup> Parent Version (8~16歳の保護者用) がある。

原尺度の構成は、図1のように、1. Physical health, 2. Emotional well-being, 3. Self-esteem, 4. Family, 5. Friends, 6. School の6つの下位領域からなっている。なお、病児にも適用できるように、そのための Disease Module 6項目が別に用意されている。6下位領域に各4項目ずつ合計24項目について、「この1週間の自分の状態にあてはまるかどうか」を5段階評定で答えさせる。6領域の合計得点をもって QOL 得点とし、より高い得点の者がよりよい QOL を示すように配点する。さらに、それぞれの領域得点を<sup>(2)</sup>0~100の値に変換する。Kid-KINDL<sup>R</sup> (8歳~12歳用) を翻訳した「小学生版 QOL 尺度」はすでに信頼性と妥当性の検討はすでになされている<sup>5)</sup>。得点の換算は原尺度に従った。

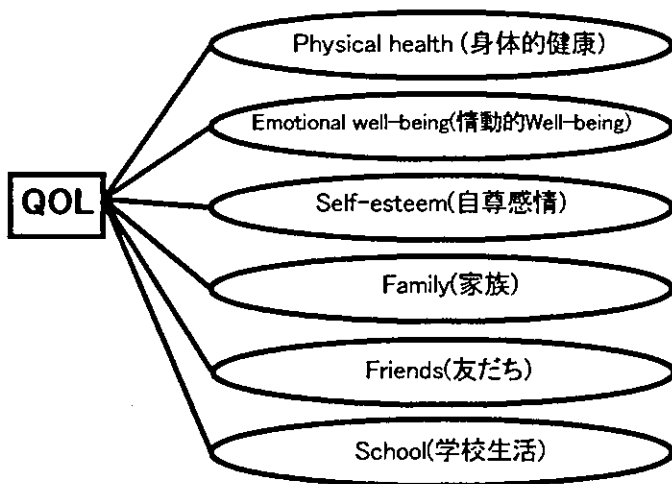


図1. the Kid-KINDL<sup>R</sup> (Questionnaire for Measuring Health - Related Quality of Life in Children, 2000) の尺度構成

注：Sub-scales transformed to 100=

$$\frac{(\text{Sub-scale score}) - (\text{lowest possible score})}{(\text{Possible range of raw score})} \times 100$$

本研究の目的は、8歳から12歳用 Kid-KINDL<sup>R</sup>、13歳から16歳用の Kiddo-KINDL<sup>R</sup>、8歳～16歳の親用である Kid-KINDL<sup>R</sup> Parent Version を「小学生版 QOL 尺度」、「中学生版 QOL 尺度」、「小中学生版 QOL 尺度：親用」として日本でも使えるかどうかを検討することである。具体的には、以下の4点である。

- ①「小学生版 QOL 尺度」において、前回の調査時にできなかった低学年の妥当性を検討する
- ②KINDL<sup>R</sup> for Parent を翻訳し、「小学生版 QOL 尺度：親用」としてその信頼性と妥当性を検討する
- ③調査地域、調査時期や調査対象校を拡大してより幅広い調査を行なうことによ

て、「小学生版 QOL 尺度」の日本におけるおおよその標準値を示す

- ④the Kiddo-KINDL<sup>R</sup> (13歳から16歳用) を翻訳し、「中学生版 QOL 尺度」として小学生版と同様にわが国で使えるかどうかを検討する

## B. 研究方法

### 1. 「小学生版 QOL 尺度」における低学年の妥当性の検討

#### (1) 調査対象者

都内の公立小学校において、小学1, 2年生(全6クラス)の185人(男児102人, 女児83人)に、個別面接調査を実施した。無回答のあるもの4人を省き181人(男児101人, 女児80人, 有効回答率98%)を分析対象とした。

#### (2) 調査の手続き

平成15年12月3, 4, 5, 8日の4日間、心理学専攻の大学生と大学院生、臨床心理士らのべ69人が、小学校の健康相談室、会議室、ランチルーム、生活科室において、対象児童を個別に約20～40分かけて面接調査した。予定時間、調査者と児童の割り当ての一覧表を事前にクラス担任教師に渡しておき、調査者はクラスに予定されている児童を迎えに行き、各部屋でインタビュー形式の個別面接調査を行い、調査が終わるとそれぞれのクラスまで児童を送り届けるという手順を進めた。

#### (3) 調査内容

小学生版 QOL 尺度(柴田ら, 2003)の24項目、子どもうつ尺度(CDI, Kavacs., 1985)のうちの19項目、自尊感情尺度(Rosenberg, M., 1965)10項目をたずねた。子どもうつ尺度は、Kovacs(1985)<sup>6)</sup>が作成したうつ傾向の自己

評価尺度 23 項目のうちの 19 項目で、「①た  
まに悲しくなる，②よく悲しくなる，③い  
つも悲しい」，「①何でもだいたいよく出来  
る，②うまく出来ないことが多い，③何をや  
っても出来ない」のように 3 段階 (0～2) で  
答えさせる。得点を取りうる範囲は 0～38  
点となり、得点が高いほどうつ傾向が強い  
ように配点されている。自尊感情尺度は、  
自己についての価値的評価の程度を自己報  
告する Rosenberg (1965)<sup>7)</sup> によって作成さ  
れたものを用いた。具体的な質問項目とし  
ては、「自分にはいくつかよいところがある  
と思う。」「私はいろいろなことを上手くや  
れると思う」などの 10 項目について、「そ  
う思う－4，まあそう思う－3，あまりそう  
思わない－2，そう思わない－1」の 4 段階  
評定する。得点がりうる範囲は 10～40  
点で、得点が高いほど自尊感情が高いよう  
に配点されている。

## 2. 「小中学生版 QOL 尺度：親用」の信頼 性と妥当性の検討

### (1) 調査対象者

都内の公立小学校の児童の保護者 484 人  
に「小中学生版 QOL 尺度：親用」を配布し、  
447 人から回答を得た。回答に不備のある  
18 人を除き、429 人を分析対象 (有効回答  
率 88%) とした。

### (2) 調査の手続きと内容

児童に調査した直後に、「小中学生版 QOL  
尺度：親用」の質問紙をクラス担任から封  
筒に入れて配布してもらった。子どもと相  
談しないで親から見た子どもの QOL の状態  
を記入するようにとの依頼文を添えた。そ  
れぞれ封をした調査用紙をクラスごとに回  
収してもらった。

### (3) 調査内容

「小中学生版 QOL 尺度：親用」は、小学  
生版 QOL 尺度と同様に 24 項目からなり、「私  
の子どもは疲れてぐったりしていた」「私の  
子どもは友だちとうまくやっているようだ  
った」のように、小中学生版 QOL 尺度と同  
じ内容を親の視点からみた子どもの QOL に  
ついてたずね、5 段階評定で回答を得るも  
のである。

## 3. 「小学生版 QOL 尺度」の標準値の検討

### (1) 調査対象者

平成 15 年 11～12 月にかけて、調査依頼  
の承諾を得られた都内の公立小学校 1 校、  
私立小学校 1 校、政令指定都市にある公立  
小学校 2 校、市部にある公立小学校 2 校、  
町村部にある公立小学校 1 校に質問紙を配  
布した。さらに、平成 16 年 2 月 3 月、6 月  
7 月に、同様に都内の公立小学校 1 校、市  
部にある国立小学校 1 校、町村部にある公  
立小学校 11 校に質問紙を配布した。平成  
15 年度は小学 1 年生から 6 年生を調査した  
が、自己記入方式で集団実施するので、6  
～7 月の調査に小学 1 年生は適当でない  
と判断したため、平成 16 年度は 2 年生から  
6 年生を対象とした。分析には 15 年度から  
も 1 年生を対象外とし、最終分析対象者は  
小学 2 年から 6 年生とした。

### (2) 調査の手続き

平成 15 年 16 年の 2 年間を通じて、地域  
を考慮し、首都圏 (東京を含む政令指定都  
市)、市部、町村部にある小学校に対して調  
査の依頼をした。承諾の得られた国公立私  
立小学校 19 校に、平成 15 年 11～12 月、  
平成 16 年 2～3 月、6～7 月に、実施方法や注  
意事項を記した文章を添えて、質問紙を郵

送り、クラス単位ごとに集団実施してもらった。

### (3) 調査内容

小学生版 QOL 尺度 (柴田ら, 2003) の 24 項目と現在病院で治療中の病気があるかどうか、あると答えたものにはその病名、また、登校前に朝食をとっているかどうかをたずねた。原則として、性別のみ記入し、無記名とした。

## 4. 「中学生版 QOL 尺度」の検討

### (1) 質問紙の翻訳

原尺度の Kiddo-KINDL<sup>R</sup> (13 to 16 - years - olds) は、Kid-KINDL<sup>R</sup> (8 to 12 - years - olds) と構成内容は同じであったが、身体的健康の 2 項目、情動的 Well-being, 自尊感情, 家族の 1 項目、友だちの 3 項目、学校生活 3 項目に、例えば、“I played with friends” が “I did things together with my friends” に、“My parents stopped me from doing certain things” が “I felt restricted by my parents” というように表現のちがいが見られた。臨床心理士 3 人と小児科医 1 人がそれぞれ独立に翻訳し、原尺度と照らし合わせながら全体的に中学生に適切な表現にするため検討し直した。さらに、アメリカ在住の小児科医 1 人、バイリンガルの高校生男子 1 人、日本語の堪能なカナダ人の大学生女子 1 人に back-translation をしてもらい、原文の表現が適切に訳されているかを検討し、「中学生版 QOL 尺度」と名付けた。

### (2) 調査の対象

都内の公立中学校 3 校、私立中学校 1 校、岐阜県と沖縄県の市部にある国立中学校 1 校、公立小学校 1 校、福島県の町村部にあ

る公立中学校 3 校の 9 校、計 3164 人の質問紙が回収され、性別の書かれていないもの解答に不備のあるものを除き、2926 人 (男子 1440 人, 女子 1486 人) を分析対象とした。

### (3) 調査の手続きと内容

2004 年度 6 月、11 月に、承諾の得られた東京都、岐阜県、沖縄県、福島県の中学校に実施方法や注意事項を記した文章を添えて、質問紙を郵送した。

### (4) 調査内容

小学生版 QOL 尺度 (柴田ら, 2003) の 24 項目と現在病院で治療中の病気があるかどうか、あると答えたものにはその病名、また、登校前に朝食をとっているかどうかをたずねた。性別のみ記入し、無記名とした。

## C. 研究結果

### 1. 「小学生版 QOL 尺度」の小学校低学年の妥当性の検討

#### (1) 小学 1, 2 年生の QOL 得点並びに 6 つの下位尺度の得点の構成

表 1 に、1 年生と 2 年生の QOL 得点並びに 6 下位領域得点の平均値と標準偏差を示す。1 年生の各得点平均と 2 年生の得点平均の間に有意差は、みられなかった。また、表 2 にみられるように、男児の各得点の平均と女児の得点の平均の間にも有意な差はみられなかった。以下に示す得点は、すべて原尺度と同様<sup>(註)</sup>に 0~100 に換算したものである。

#### (2) QOL 得点と子どもうつ尺度、自尊感情尺度との相関

QOL 得点並びに 6 つの下位領域尺度得点と子どもうつ尺度、自尊感情尺度間の相関

係数が表3に示されている。子どもうつ尺とQOL得点の間にはPearsonの積率相関で-.66となり、6下位領域得点との間にも-.32~-0.52といずれも中程度以上の負の有意な相関 ( $p < .01$ ) がみられた。

また、自尊感情尺度とQOL得点との間に正の有意な相関 ( $p < .01$ ) がみられた。子どもうつ尺度や自尊感情尺度と理論的に期待される方向での相関がみられ、これら2つの心理的適応尺度と小学生版QOL尺度の関連性が示された。

表1 1, 2年生のQOL得点ならびに6下位領域得点の平均値と標準偏差

	身体的健康	情動的 Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL得点
1年生 n=100	73.88 (17.05)	75.13 (19.82)	70.13 (20.86)	68.75 (19.82)	72.13 (16.93)	69.00 (20.06)	71.50 (12.16)
2年生 n=81	74.69 (17.89)	76.08 (19.28)	68.21 (21.75)	68.06 (21.65)	72.84 (15.79)	66.82 (17.81)	71.12 (11.63)

( ) = SD

表2 1, 2年生の男女別QOL得点ならびに6下位領域得点の平均値と標準偏差

	身体的健康	情動的 Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL得点
男児 n=101	74.26 (17.93)	77.23 (19.15)	72.90 (19.77)	66.71 (21.09)	71.91 (15.95)	69.55 (18.99)	72.09 (12.13)
女児 n=80	74.22 (16.80)	73.44 (19.93)	64.69 (22.22)	70.63 (19.90)	73.13 (17.00)	66.09 (19.10)	70.36 (11.58)

( ) = SD

表3 小学1, 2年生のQOL得点並びに6下位領域得点と子どもうつ尺度, 自尊感情尺度

	身体的健康	情動的 Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL得点
子どもうつ尺度との相関係数	-.52**	-.42**	-.32**	-.38**	-.35**	-.48**	-.66**
自尊感情尺度との相関係数	.35**	.30**	.40**	.24**	.37**	.41**	.55**

\*\* =  $p < .01$ , \* =  $p < .05$



## 2. 「小学生版 QOL 尺度：親用」について

### (1) 親から見た子どもの QOL 得点

「小学生版 QOL 尺度：親用」によって保護者に“親から見た子どもの QOL”についてたずねた結果は、QOL 得点の平均値は 75.2 (SD=10.28) で、図 2 に見られるように、ほぼ正規分布していた。学年別の QOL 得点並びに 6 下位尺度には、下位尺度の自尊心のみに有意に差があった (F(5.423) = 3.367,  $p < .05$ )。

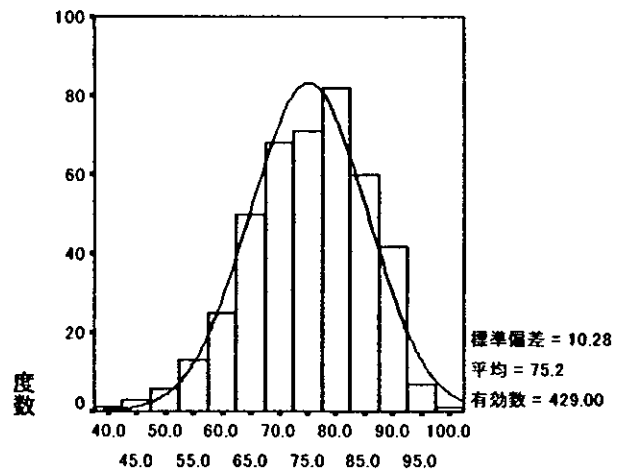


図2 親から見た子どものQOL得点度数分布

表4 親から見た子どものQOL得点 (東京都公立小学校の保護者)

	QOL 得点	身体的 健康	Well- being	自尊 感情	家族	友だち	学校 生活
1年	76.38 (9.71)	84.64 (17.66)	85.17 (13.79)	67.77 (15.01)	66.86 (11.12)	76.51 (14.19)	77.41 (13.79)
2年	78.35 (9.91)	84.38 (14.68)	87.22 (10.31)	70.55 (16.33)	69.13 (14.03)	79.73 (13.61)	79.07 (14.23)
3年	75.00 (10.04)	82.18 (14.94)	83.70 (14.14)	66.13 (15.89)	64.70 (13.51)	77.79 (16.03)	75.51 (15.05)
4年	74.86 (9.32)	81.98 (13.79)	83.69 (12.79)	65.42 (15.53)	68.02 (15.27)	77.76 (13.08)	72.32 (14.71)
5年	73.41 (10.99)	83.47 (14.81)	81.46 (13.43)	60.81 (18.89)	64.83 (15.17)	77.75 (16.63)	72.14 (17.65)
6年	73.26 (10.87)	79.86 (16.78)	82.34 (15.89)	61.81 (16.35)	66.57 (14.51)	74.21 (16.67)	74.80 (14.59)
全体	75.29 (10.18)	82.81 (15.53)	84.02 (15.53)	65.53 (16.46)	66.71 (13.91)	77.30 (14.99)	75.28 (15.07)

( ) = SD

(2)「小学生版 QOL 尺度：親用」の信頼性と妥当性

表5にみられるように、子どものQOL得点と親から見た子どものQOL得点との Pearson の積率相関係数は.32 ( $p < .01$ )となり、6下位領域はそれぞれ.16～.32 ( $p < .01$ )であった。弱い相関ではあるが、ある程度の関連性はみられた。

また、信頼性を検討するために内的整合性を推定する Cronbach の  $\alpha$  係数をみると、表6に示されるように、QOL得点では.87なり、6下位領域の得点も.58～.85と高い値が得られた。

表5 子どものQOL得点並びに6下位領域得点と保護者から見た子どものQOL得点ならびに6下位領域得点との間の相関係数

	身体的健	情動的	自尊心	家族	友だち	学校生	QOL得点
P 身体的健康	.32**	.16**	.08	.08	.10*	.11*	.20**
P 情動的	.23**	.23**	.09	.16**	.21**	.10*	.23**
P 自尊感情	.15**	.09	.18**	.11*	.17**	.14**	.21**
P 家族	.10*	.08	.06	.16**	.06	.01	.17*
P 友だち	.27**	.24**	.09	.11*	.29**	.03	.24**
P 学校生活	.26**	.30**	.13**	.11**	.28**	.27**	.34**
P QOL得点	.32**	.25**	.15**	.17**	.27**	.16**	.32**

表6 小学生版 QOL 尺度の QOL24 項目間ならびに6下位領域4項目間の  $\alpha$  係数

	身体的健康	情動的 Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL得点
Cronbach の $\alpha$ 係数 n=429	.63	.69	.85	.58	.75	.72	.87

### 3. 「小学生版 QOL 尺度」標準値の検討

#### (1) 最終分析対象者

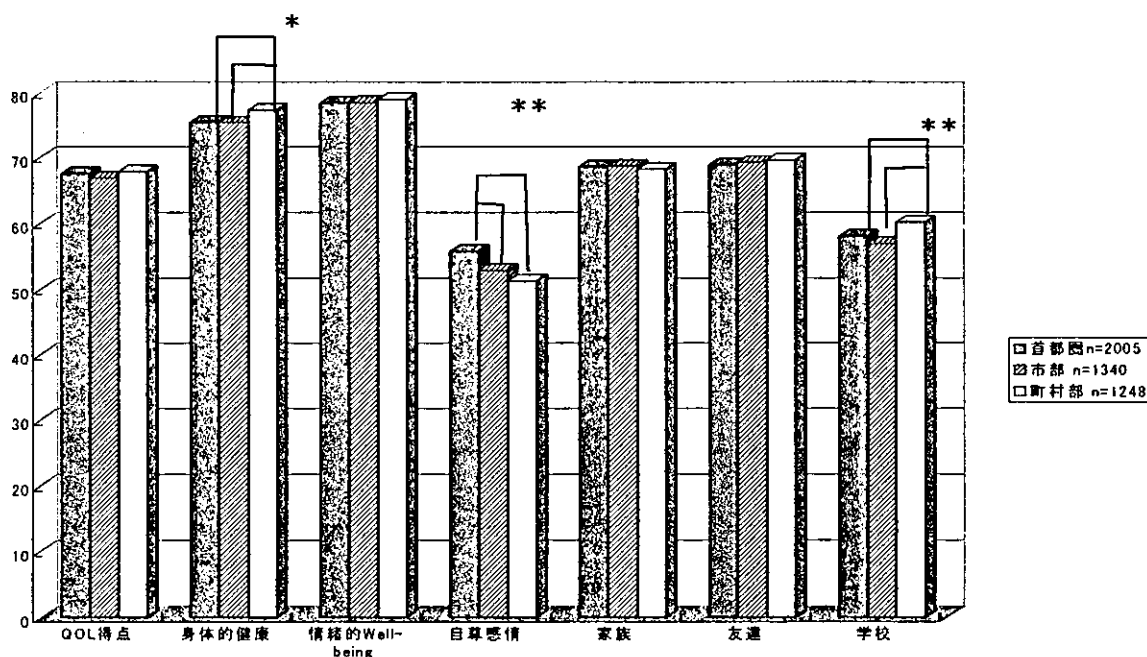
最終分析対象者は、小学2年生から6年生の4607人（男児2348人、女児2259人）とした。内訳は、15年度と16年度の2回調査した都内の公立小学校は16年度のみを分析対象の中に入れ、平成15年度と16年度あわせて、東京都、神奈川県、東京都の首都圏4校（公立小学校4校+私立小学校1校）、神奈川県、岐阜県の市部3校（国立小学校1校+公立小学校2校）、新潟県、福島県の町村部公立小学校12校、計19校であった。

地域別内訳は表7のように、首都圏2005人（男児1047人、女児958人）、市部1354人（男児666人、女児688人）、町村部1248人（男児635人、女児613人）であった。首都圏、市部、町村部の地域に分けてQOL得点を検討した。

表7 小学生の地域別内訳

地域	学校の種類	学校数(校)	男児(人)	女児(人)	総数(人)
首都圏	公立	3	781	708	1489
	私立	1	266	250	516
市部	公立	2	382	396	778
	国立	1	284	292	576
町村部	公立	12	635	613	1248
	合計	19	2348	2259	4607

図3にみられるように、下位領域の身体的健康と学校の得点は町村部が高く（ $p < .001$ ）、自尊感情得点は首都圏が高かった（ $p < .001$ ）。しかし、総得点であるQOL得点においては、地域差はみられなかった。また、19校の学校間にはそれぞれ有意な差が見られたが、地域による偏りは見られなかった。



\*= $p < .05$ , \*\*= $p < .001$

図3 小学生の地域別(首都圏・市部・町村部)のQOL得点ならびに6下位領域得点

地域差が見られなかったため、全 19 校 4607 人を対象に QOL 得点の度数分布をみると、平均値 67.46、標準偏差 13.49 となり、中央値は 67.71 で、図 4 に示すようにほぼ正規分布していた。別表に得点分布のパーセンタイル値を示す。

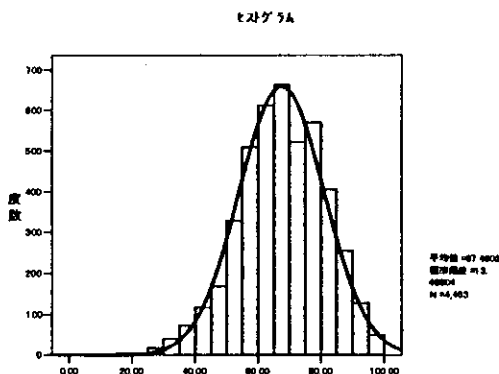


図 4 小学生 QOL 得点の度数分布

### (3) 年齢・性別による得点の検定

QOL 得点と 6 下位領域の得点について、学年 (5) × 性別 (2) の 2 要因の分散分析を行った。いずれの得点にも学年と性別の交互作用はみられなかったため、学年と性別のそれぞれの主効果を検討した。そこで、学年の主効果のあったものは Tukey の多重比較をおこなった。図 5 に男女別、図 6 に学年別の QOL 得点ならびに 6 下位領域得点の平均値を示した。

QOL 得点においては、性別に有意な差は見られず、学年の主効果 ( $F(4.4453 = 25.09)$ ,  $p < .001$ ) のみがあった。2 年生は 4 年 5 年 6 年生より高く、3 年生は 5 年 6 年より高く、4 年生は 2 年より低く、5 年 6 年より有意に高かった。5 年、6 年生は 2 年 3 年 4 年生より低く、年齢ごとに低下の傾向がみられた。

下位領域の身体的健康においては、学年 ( $F(4.4558) = 8.6$ ,  $p < .001$ ) と性別 ( $F(1.4558) = 20.28$ ,  $p < .001$ ) のそれぞれの主効果があった。6 年は 2 年 3 年 4 年より低く、5 年は 2 年 3 年より低くかった。また、男児は女児より高かった。

情動的 Well-being においては、学年の主効果のみ見られた ( $F(4.4450) = 5.05$ ),  $p < .001$ )。6 年は 2 年 3 年 4 年より高かった。

自尊心の得点においては、学年 ( $F(4.4561) = 99.39$ ,  $p < .001$ ) と性別 ( $F(1.4561) = 14.12$ ,  $p < .001$ ) のそれぞれの主効果があった。6 年は 2 年 3 年 4 年 5 年より低く、5 年は 6 年より高いが 2 年 3 年 4 年より低く、4 年は 2 年 3 年より低く 5 年 6 年より高く、3 年は 4 年 5 年 6 年より高く、2 年は 4 年 5 年 6 年より高く、2 年と 3 年に有意な差はなかったが、他はすべて有意な差が見られ、学年が上がるにつれて得点は低下していた。男児は女児の得点より高かった。

家族の得点においては、性別の主効果のみ見られた ( $F(1.4450) = 21.78$ ),  $p < .001$ )、女児は男児の得点より高かった。

友だちの得点においては、学年 ( $F(4.4541) = 7.89$ ),  $p < .001$ ) と性別 ( $F(1.4541) = 7.19$ ),  $p < .01$ ) のそれぞれの主効果があった。2 年は 4, 5, 6 年より高かく、女児は男児より高い傾向が見られた。

学校の得点においては、学年の主効果があった ( $F(4.4561) = 38.85$ ,  $p < .001$ )。6 年は 4 年 3 年 2 年より低く、5 年は 4 年 3 年 2 年より低く、4 年は 2 年より低く 5 年 6 年より高く、3 年は 2 年より低く 5 年 6 年より高かった。年齢が上がるにつれて得点の減少の傾向が見られた。